

教科等別ワーキンググループ等の議論の進捗状況等

言語能力の向上に関する特別チーム 1

【第一回：10月22日、第二回：12月18日、第三回：1月13日、第四回：3月3日】

国語ワーキンググループ 6

【第一回：11月19日、第二回：12月14日、第三回：1月19日、第四回：2月19日、
第五回：3月14日、第六回：4月20日】

外国語ワーキンググループ 15

【第一回：10月26日、第二回：11月30日、第三回：12月11日、第四回：12月21日、
第五回：1月12日、第六回：2月23日、第七回：3月22日、第八回：4月26日】

高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム 42

【第一回：11月12日、第二回：12月21日、第三回：2月16日】

社会・地理歴史・公民ワーキンググループ 43

【第一回：12月7日、第二回：1月18日、第三回：1月25日、第四回：1月28日、
第五回：2月8日、第六回：2月29日、第七回：3月4日、第八回：4月6日、
第九回：4月11日、第十回：4月22日、第十一回：4月27日】

高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム
. 73

【第一回：11月20日、第二回：1月21日、第三回：3月1日、第四回：4月13日】

算数・数学ワーキンググループ 78

【第一回：12月17日、第二回：1月22日、第三回：2月15日、第四回：3月11日、
第五回：4月18日】

理科ワーキンググループ 95

【第一回：11月10日、第二回：12月14日、第三回：1月14日、第四回：2月5日、
第五回：3月9日、第六回：3月29日、第七回：4月26日】

芸術ワーキンググループ 1 0 3

【第一回：11月23日、第二回12月21日、第三回・第四回：1月22日、
第五回・第六回：2月23日、第七回：4月26日】

家庭、技術・家庭ワーキンググループ 1 2 8

【第一回：11月30日、第二回・第三回：12月15日、第四回・第五回：2月17日、
第六回：3月11日、第七回：4月13日】

情報ワーキンググループ 1 4 3

【第一回：10月22日、第二回：11月24日、第三回：12月22日、
第四回：1月20日、第五回：2月23日、第六回：3月15日、第七回：
4月20日】

体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ 1 6 1

【第一回・二回：11月23日、第三回：12月10日、第四回：12月24日、
第五回：1月20日、第六回：2月10日、第七回：3月8日、第八回：4月28日】

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ 1 8 8

【第一回：11月16日、第二回：12月8日、第三回：1月12日、第四回：2月23日、
第五回：3月8日、第六回：3月24日、第七回：4月25日】

特別活動ワーキンググループ 2 0 5

【第一回：11月25日、第二回：12月22日、第三回：1月20日、第四回：2月24日、
第五回：3月10日、第六回：3月23日】

産業教育ワーキンググループ 2 2 1

【第一回：12月7日、第二回：12月16日、第三回・四回：1月8日、
第五回：2月1日、第六回：3月28日、第七回：4月27日】

(未開催)

・考える道徳への転換に向けたワーキンググループ

言語能力の向上に関する特別チームにおける検討事項

1. 「国語科」及び「外国語科・外国語活動」を通じて育成すべき言語能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 他教科における言語能力の育成との関係について
2. 言語能力を向上させるための、「国語科」及び「外国語科・外国語活動」における指導内容の系統性について
 - ・ 目標・指導内容（当該教科において育成すべき資質・能力）等全体に関して
 - ・ 言語の仕組み（音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等）に関して
3. 言語能力を向上させるための、「国語科」及び「外国語科・外国語活動」相互の連携について
 - ・ 目標・指導内容（当該教科において育成すべき資質・能力）等全体に関して
 - ・ 言語の仕組み（音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等）に関して
 - ・ ローマ字学習の取扱いについて
4. 効果的な指導の在り方について
 - ・ 教科担任制の中・高等学校における連携の在り方
 - ・ 短時間学習の活用
 - ・ ICT等の活用

言語能力を構成する資質・能力（検討のたたき台）

個別の知識や技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

- 言葉の働き、役割に関する理解
- 言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け
 - ・言葉の位相、書き言葉(文字)、話し言葉
 - ・語、語句、語彙
 - ・文の成分、文の構成
 - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係) など
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
 - ・話し方、書き方、表現の工夫
 - ・聞き方、読み方 など
- 言語文化に関する理解

- ◆ テキスト(情報)を理解する力、文章や発話により表現する力
 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
 - 情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力
 - ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化
 - ・論理(情報と情報の関係性:共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築
 - ・妥当性、信頼性等の吟味
 - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
 - 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
 - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
 - 言葉を通じて伝え合う力
 - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
 - ・自分の考えや思いの伝達
 - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
 - 構成・表現形式を評価する力

- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)に関する理解

- ◆ 考えを形成、深化する力
 - 情報を編集・操作する力
 - 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
 - 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- ・言葉がもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・自分の感情をコントロールして学びに向かう態度
- ・歴史の中で創造され、継承されてきた言語文化の担い手としての自覚

言語能力を構成する資質・能力が働く過程(イメージ案)
 ~「国語科」及び「外国語科・外国語活動」を通じて育成すべき言語能力~

認識から思考へ

テキスト(情報)の理解

構造と内容の把握

- 言葉の働き、役割に関する理解
- 日本語や外国語の特徴やきまりに関する理解と使い分け
 - ・言語の位相、書き言葉(文字)、話し言葉
 - ・語、語句、語彙
 - ・文の成分、文の構成
 - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
 - ・話し方、聞き方、表現の工夫
 - ・聞き方、読み方
- 言語文化に関する理解
- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)に関する理解

精査と解釈

【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】

- 情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力
- ・ 推論及び既有知識による内容の補足、精緻化
- ・ 論理(情報と情報の関係性:共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築
- ・ 妥当性、信頼性等の吟味
- 構成・表現形式を評価する力

【感性・情緒の側面】

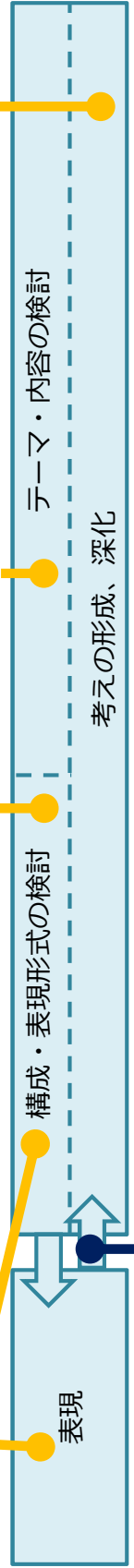
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力

【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
- ・ 相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
- ・ 自分の考えや思いの伝達
- ・ 相手の心の想像、意図や感情の読み取り
- 構成・表現形式を評価する力

自分なりの整合性のとれた考えの形成

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力



推敲

- 文章の推敲
- ・ 構成・表現形式の修正
- ・ 内容の再検討、考えの再整理
- 発話の調整
- ・ 自分の考えや思いを伝えるための展開
- ・ 相手の立場や視点を考慮した展開

文章や発話による表現

思考から表現へ

言葉の働き(機能)と仕組みについて

平成28年3月3日
教育課程部会
言語能力の向上に関する特別チーム
資料3

言葉の働き(機能)

◆日本語も外国語も、言語として、同じ言葉の働き(機能)を持っている。

(ヤコブソンの6分類) ※理論的に区分した分類であり、実際の言語活動は、複数の機能を同時に果たしている。

【主情的機能】

心や身体 の 状況変化を外部に表出する機能。
Ex. 感嘆詞、間投詞など。

【詩的機能】

具体的な内容を伝達することよりも、メッセージそのもの(音の響き、リズム、形態、統辞、語彙など)に着目した機能。

【働きかけ機能】

相手に訴え、相手を動かす機能。聞き手を何らかの行動へと駆り立てる、一種の働きかけ。

【交話的機能】

言葉を交わし合うこと自体が、互いの心を通わせ、一体感を高める働きをすること。
Ex. 挨拶、相槌、井戸端会議

【指示的機能】

内外の環境世界を、言葉という手段を使って解釈し、描写し、記録する機能。

【メタ言語的機能】

本来、事物や事象などの対象を語る「オブジェクト言語」に対して、言語そのものを語る機能。

(参照:「言語とメタ言語」R.ヤコブソン(池上嘉彦、山中桂一訳) 勁草社、「教養としての言語学」鈴木孝夫著 岩波新書)

※ヤコブソンの6分類は、対人コミュニケーションの場面における「言葉の働き」を整理したものであるため、この6分類のほか、内言語機能(思考のための内なる言語活動)があることに留意する必要がある。

◆国語の果たす役割、個人にとっての国語

①知的活動の基盤

- ・あらゆる「知識の獲得」と「能力の形成」にかかわるもの
- ・思考そのものを支えている
- ・論理的思考力や創造性の基盤

②感性・情緒等の基盤

- ・美しい日本語の表現やリズム、人々の深い情感、自然への繊細な感受性などに触れ、美的感性や豊かな情緒を培う

③コミュニケーション能力の基盤

- ・言葉や文字などによる意思や感情などの伝え合い
- ・「人間関係形成能力」や目的と場に応じて「効果的に発表・提示する能力」の根幹

(参照:「これからの時代に求められる国語力について」文化審議会答申)

◆「言葉の働き」に関する現行の学習指導要領における主な記載

【国語科(小学校)】

- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

【外国語活動(小学校)】

[コミュニケーションの働きの例]

相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

【外国語科(中学校、高等学校)】

[言語の働きの例]

コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

言葉の仕組み

- ◆日本語や英語をはじめとするそれぞれの言語は、共通の基盤である「言葉の普遍性」と、それぞれ固有の特徴(仕組み)である「個別性」を持っている。

○音声

- ・日本語の母音や子音と、英語の母音や子音には違いがある。
- ・それぞれの言語において、母音と子音を組み合わせ合わせた音節の作り方に違いがある。

など

○語(分節、ことばによる世界の切り分け方)

- ・単語は、日本語と外国語(英語)が一对一で対応しているわけではない。
【例】日本語の「水」は「湯」と区別して用いるが、英語では温度に関係なくwaterを用いる。
- 【例】着る…身に付ける動作と身に付けている状態の両方を表す、上着やワンピースに使う wear…身に付けている状態を表す、上着やワンピースのほか眼鏡やヘアスタイルにも使う
- ・背景となる文化が語に影響を与えている。
【例】英語の“rice”に当たる語は、日本語では、「稲」「米」「ご飯」と複数ある。

など

○テキストの構造、語順、主語・述語・目的語等

- ・日本語と英語では、語順の自由度に違いがある。
【例】日本語：太郎は、花子が好きだ。＝花子が、太郎は好きだ。
- ・語順や区切りを変えることで、意味が変わることがある。
【例】警察官が、自転車で逃げた泥棒を追いかけた。／警察官が自転車で、逃げた泥棒を追いかけた。
赤い、ストライプのシャツ／赤いストライプのシャツ

など

○テキストの文脈上の意味

- ・テキストの意味は常に一定ではなく、文脈(状況、場面、相手等を含む)によって変化するものであり、このことは全ての言語に共通する。
【例】「電話が鳴っているよ。」
※「電話が鳴っている」状況を描写したのではなく、「電話をとって欲しい」という依頼の意図が含まれている。
「時計持っている？」
※腕時計をしているかを聞きたいのではなく、「今、何時？」という質問の意図が含まれている。
- ・使用者や文脈との関係によって、それぞれに適切な表現は異なる。
【例】英語においても、日本語の敬語表現とは異なるが、“Would you please ～？”等の敬意表現がある。
【例】人に名前を聞くときは、通常、“Who are you？”ではなく、“What’s your name？”を使う。

など

○文字、表記の在り方

- ・言葉の表出は、音声と文字に分かれるが、文字を持たない言語もある。
- ・日本語は、一つの言葉を平仮名、片仮名、漢字の3通りで書くことができ、この3種類の文字を混ぜて文を書くが、英語はアルファベットの1種類のみを用いる。
- ・現代の表記においては、英語は発音とつづりが1対1で対応しているわけではないが、日本語は発音と平仮名、片仮名の表記がほぼ一致している。

など



- まずは国語の学習において、言葉の働きに気付くことが重要ではないか。

(児童生徒が国語を学ぶ意味を理解することにもつながる。)

- 言葉には共通の働きや仕組みの違いがあることを、児童生徒が認識した上で、国語科、外国語科の学習を行うことが、それぞれの学習に効果があるのではないか。

国語ワーキンググループにおける検討事項

1. 国語科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・国語科を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について（言語能力の向上に関する特別チームにおける議論を踏まえて）
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた国語科において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・国語科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・特に高等学校における科目構成について
 - ・漢字指導の在り方について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき国語科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき国語科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

国語教育のイメージ（4月20日版）

平成28年4月20日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料4（会議後修正）

高等学校基礎学力テスト
(仮称)



【高等学校】

- ◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。
- ①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたる国語を尊重してその向上を図るようになる。

【中学校】

- ◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を豊かにし、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。
- ①社会生活に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、国語を尊重するようになる。

【小学校】

- ◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を養い、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。
- ①日常生活に必要な国語の特質(仮)について理解し使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、人と人との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉の大切さを自覚し、国語を尊重するようになる。

【幼児教育】

(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に関心したり、予想したり、工夫したりなどとして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせながら、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に関心したりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。

全国学力・学習状況調査



国語科で育成すべき資質・能力（検討のたたき台）

個別の知識や技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

- 言葉の働き、役割に関する理解
- 言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け
 - ・言葉の位相、書き言葉(文字)、話し言葉、敬語、方言
 - ・語、語句、語彙
 - ・文の成分、文の構成
 - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係) など
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
 - ・話し方、書き方、表現の工夫
 - ・聞き方、読み方、音読・朗読の仕方
 - ・話合いの仕方
- 書写に関する知識・技能
- 伝統的な言語文化に関する理解
- 文章の種類に関する理解
- 情報活用に関する知識・技能

- ◆テキスト(情報)を理解する力、文章や発話により表現する力
 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
 - 情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力
 - ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化
 - ・論理(情報と情報の関係性:共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築
 - ・妥当性、信頼性等の吟味
 - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
 - 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
 - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
 - 言葉を通じて伝え合う力
 - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
 - ・自分の考えや思いの伝達
 - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
 - 構成・表現形式を評価する力
- ◆考えを形成、深化する力(個人または集団として)
 - 情報を編集・操作する力
 - 新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力
 - 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- ・言葉がもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに出会ったりするなどして人生を豊かにしようとする態度

国語科における学びと教科の特質に応じ育まれる「見方・考え方」との関係性について（イメージ案）

平成28年4月20日
教育課程部
国語ワーキンググループ
資料2

（総則・評価特別部会資料より抜粋）

「見方や考え方」とは、**様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点**や、**各教科等ならではの思考の枠組み**であると考えられる。こうした「見方や考え方」と育成すべき資質・能力の関係性について、以下のような整理ができるのではないか。

- ・「見方や考え方」は、知識・技能を構造化して身に付けていくために不可欠である。「見方や考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり、知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識を他と関連づけて定着させたり、構造化された新たな知識として習得したり、技能を習熟・熟達させたりすることができる。
- ・「見方や考え方」が成長することにより、思考力・判断力・表現力が豊かなものとなり、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力として育成されていく。
- ・学びに向かう力や人間性の育成には、どのような「見方や考え方」を通じて社会や世界にどのような関わるといえるかが大きく作用している。

（どのような視点で捉えるか）
言葉の働きを捉えること

言葉で表現されたもの
言葉による表現そのもの

（どのような枠組みで思考するか）

国語で表現し理解すること（創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面）を通して、自分の思いや考えを形成し深めること＝資質・能力の思考力・判断力・表現力等

【国語科における学び】

国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深めること

1

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・ 国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深める学習活動にすること。

など

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・ 子供同士、子供と教師、子供と地域の人や本の作者などとの対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること。（ 直接の話し合い以外の対話も含む。）

など

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組む、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・ 子供自身が、目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習場面を計画的に設けること。
- ・ 子供たちの学びが意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定すること。

など

国語科における学習活動の要素(イメージ案)

平成28年4月20日
 教育課程部
 国語ワーキンググループ
 参考資料2(会議後修正)

学習目的の理解 (見通し)

自分の学習に対する考察 (振り返り)

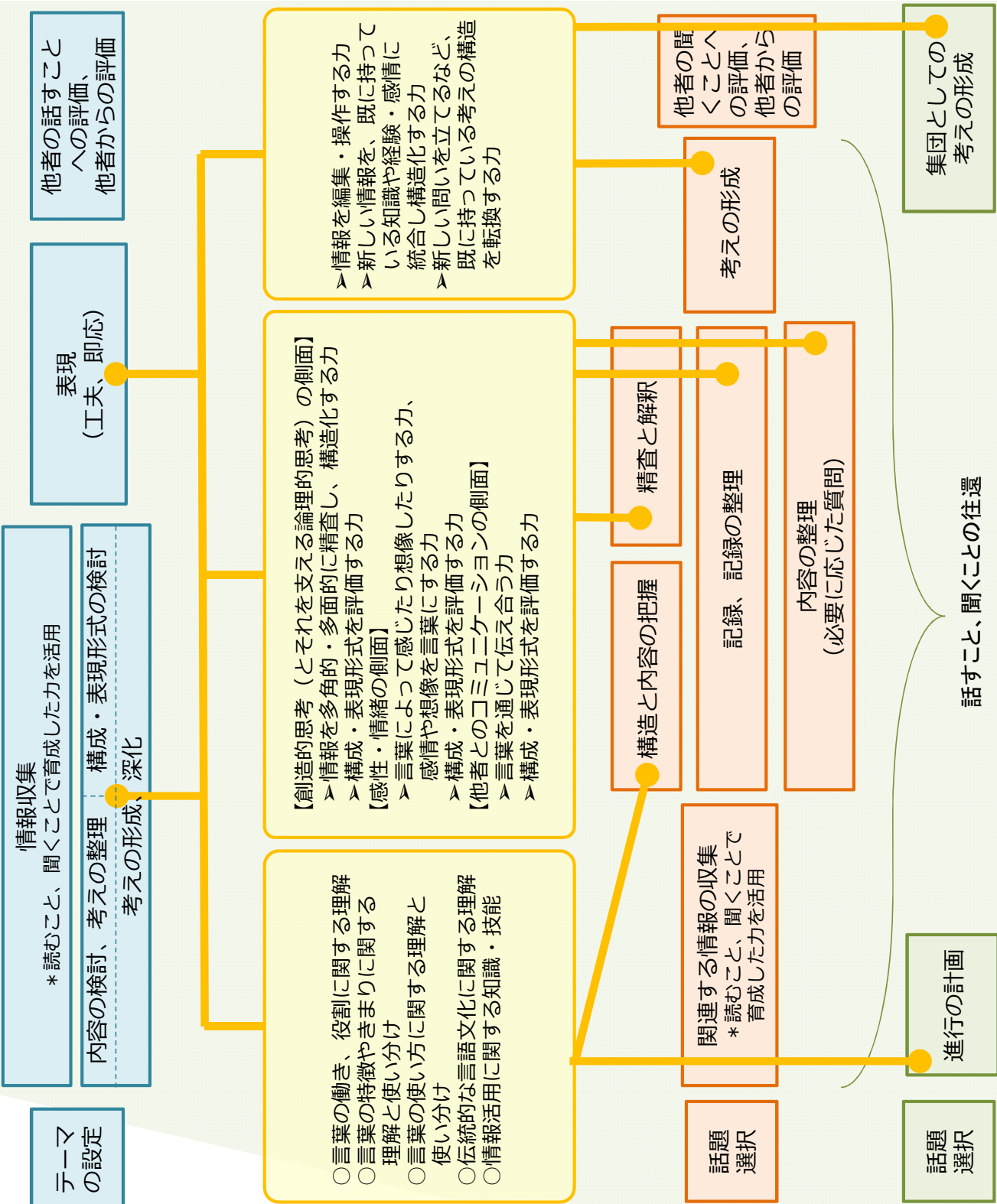
次の学習活動 (話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと) への活用

話すこと

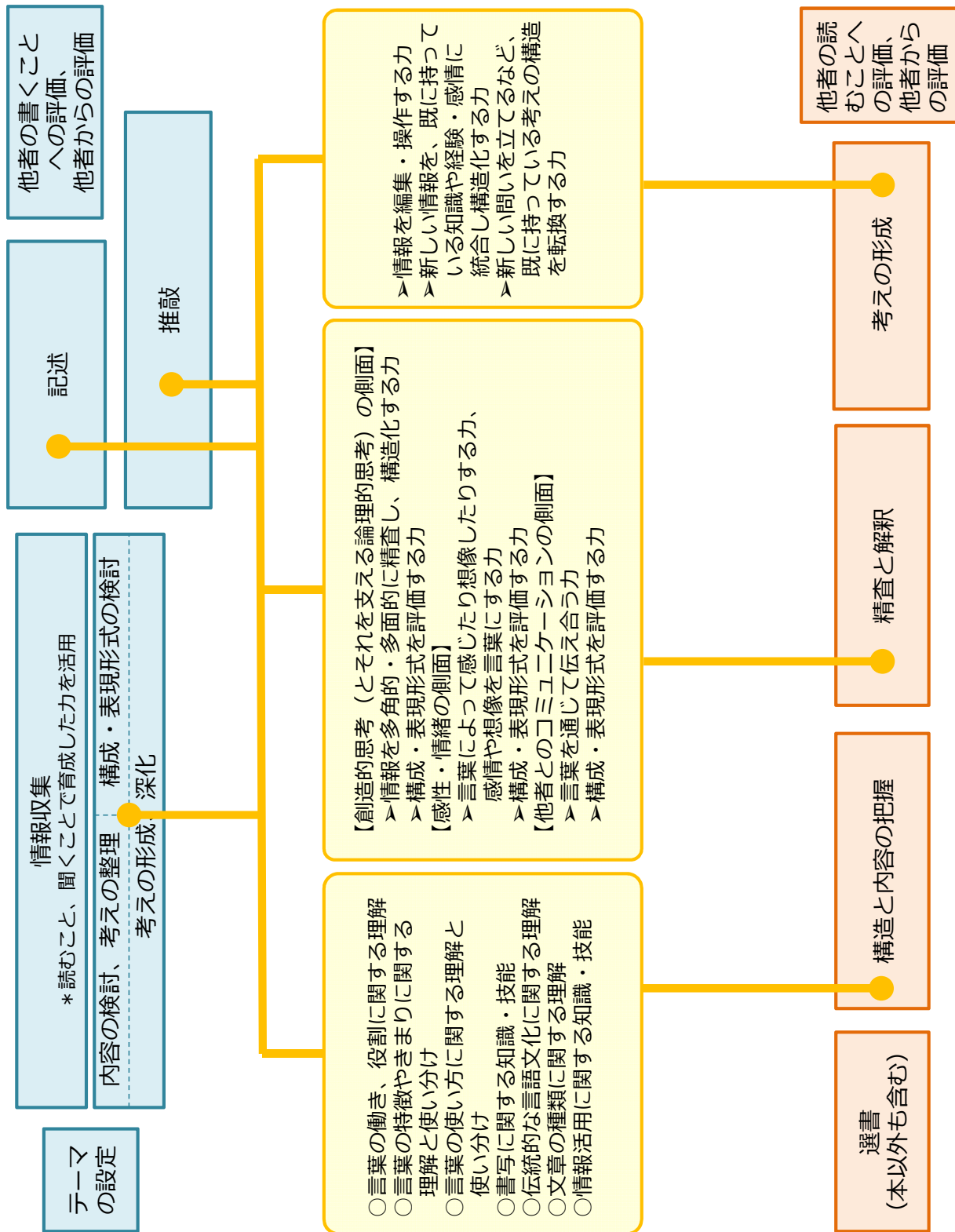
聞くこと

話し合うこと

話すこと・聞くこと



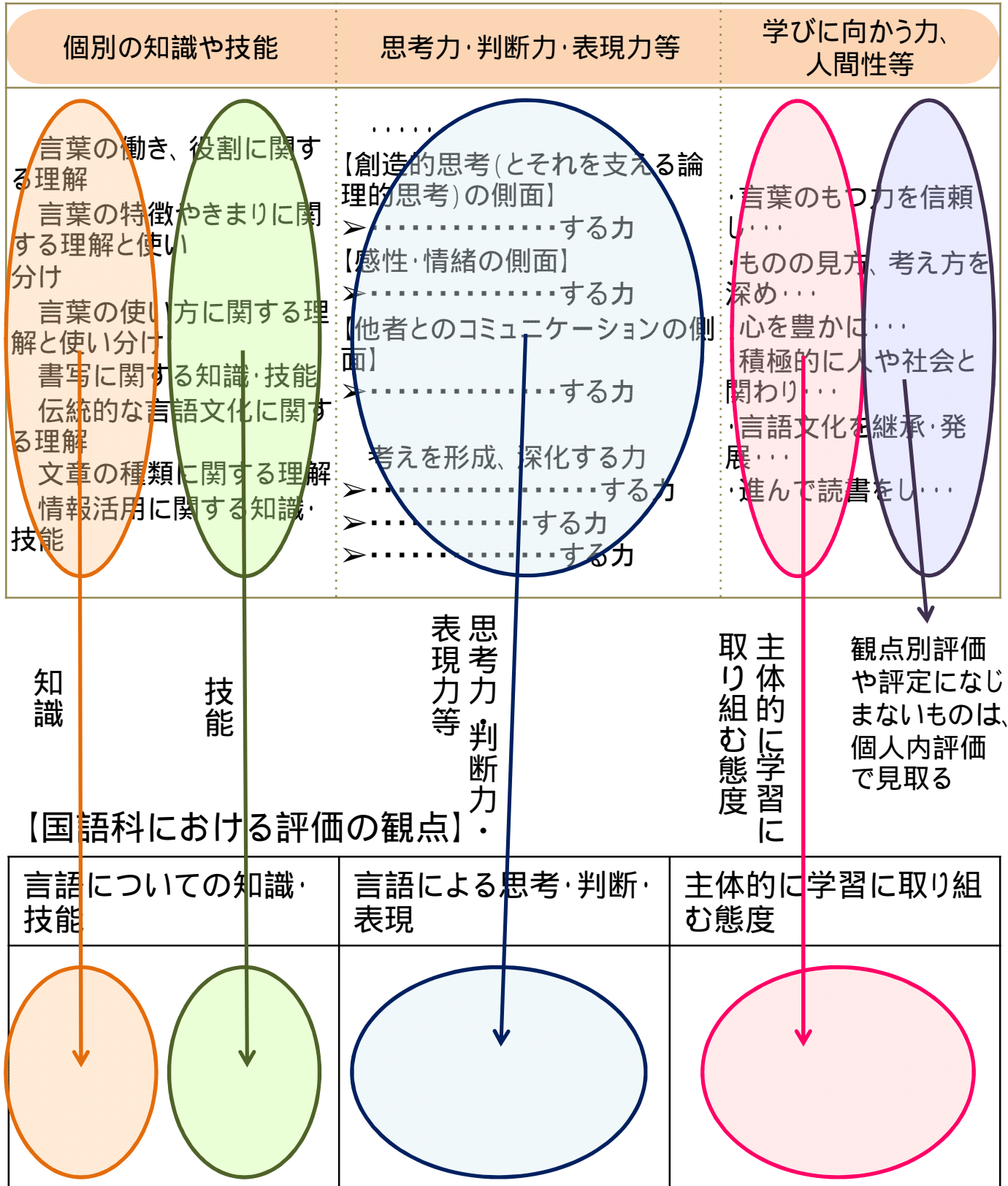
※必ずしも一方通行、順序性のある流れではない。



国語科における学習評価について(案)

平成28年4月20日
 教育課程部会
 国語ワーキンググループ
 資料5

【国語科で育成すべき資質・能力(3つの柱で整理)】



「知識」は事実的な知識のみならず、思考・判断・表現の過程を経て構造化された概念的な知識の理解も含む。

【国語科における評価の観点のイメージ例】

	言語についての知識・技能	言語による思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校	(例) 日常生活に必要な国語の特質(仮)について理解し使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、人と人との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に人と関わったり、思いや考えを形成したりしようとするとともに、言葉のよさに気付き、読書に親しんで言葉をより良く使おうとしている。
中学校	(例) 社会生活に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に人や社会と関わったり、思いや考えを確かにしたりしようとするとともに、言葉の価値に気付き、進んで読書に親しんで言葉を適切に使おうとしている。
高等学校	(例) 生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に社会や他者と関わったり、意見や思想を構築したりしようとするとともに、言葉の価値を認識し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。

外国語ワーキンググループにおける検討事項について

中教審・教育課程企画特別部会「論点整理」(平成 27 年8月 26 日)、「英語教育の在り方に関する有識者会議」(平成 26 年9月 26 日)等を踏まえて、主に次のような事項について検討いただく。

1. 小・中・高等学校を通じて育成すべき外国語教育における資質・能力について

①育成すべき資質・能力の可視化

- i)何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
- ii)知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力)
- iii)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)

②小・中・高等学校を通じて①児童生徒の学びを円滑に接続させるため、小・中・高等学校を通した一貫した目標・内容、学習過程の在り方について、発達段階に応じてどのように充実を図るか

③外国語教育として、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るか

2. 外国語教育の改善について

言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題から幅広い話題についての理解や表現、情報・意見交換等ができるコミュニケーション能力を養うため、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について、主に次のような事項について検討。

- 小学校・中学校・高等学校を通じて一貫した教育目標(指標形式の目標を含む)・指導内容、学習過程等の在り方
 - ・学校が設定する目標等との整理
 - ・指導する語彙数、文法事項
 - ・CEFRとの関係整理 等

- 言語能力を向上させるための国語教育と外国語教育との連携
 - ・目標・指導内容等全体に関して
 - ・言語の仕組み(音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等)
 - ・言語活動等

* 言語能力の向上に関する特別チームにおける検討事項を参照

- 小学校の活動型、教科型
 - ・論点整理で示された指摘(目標・内容とともに、短時間学習の活用など)
- 小中連携
 - ・小学校高学年から中学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等
- 中学校、高等学校の改善の方向性
 - ・中学校:
 - ・互いの考えや気持ちを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業
 - ・授業は英語で行うことを基本とする
 - ・高等学校:科目の見直し(4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方)
- 中・高連携
 - ・中学校から高等学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等
- 高等学校の科目等の見直し
 - ・4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方(再掲)
 - ・専門教科「英語」の在り方
- 小・中・高等学校の学習評価の在り方
 - ・評価の三つの観点
 - ・各学校が設定する学習到達目標(CAN-DO形式)との関係
 - ・多様な評価方法
 - (パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等) 等
 - ・小学校高学年の教科としての評価
- 英語以外の外国語の扱い

3. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 外国語教育を充実するための「カリキュラム・マネジメント」の確立
- ② 教員の英語力・指導力の向上や外国語指導助手等の外部人材の活用などの条件整備
 - ・中教審・教員養成部会等の議論
 - ・教員養成・研修
 - ・教科書・教材 等

外国語WGにおけるとりまとめのイメージ（案）

- これまでの成果・課題・方向性に関する議論を踏まえ、とりまとめ。本日は、これまでに議論が十分でない点を中心に議論。

※現状・課題については、各種調査(小学校外国語活動実施状況調査、中・高等学校の英語力調査など)

※小学校部会、※外国語WG（1月12日）まとめ

※「英語教育の在り方に関する有識者会議」（報告：26年9月） など

1. 現行学習指導要領の成果と課題

2. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科課程の構造の在り方とカリキュラム・マネジメントについて

○外国語教育を充実するための「カリキュラム・マネジメント」の意義、効果的な実施の在り方

○短時間学習の実施を含めた、効果的で柔軟なカリキュラム・マネジメントの在り方

※「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面（教育課程企画特別部会「論点整理」22ページ参照）

- ① 教育内容を、一つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え、効果的に編成する。
- ② 子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善のサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、指導体制やICT活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。

3. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

（1）教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方

（参考：たたき台）

- ◇ 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを活用して、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うこと

※ 別添資料8 外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ案)

（2）小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

① 資質・能力の三つの柱（教育課程企画特別部会「論点整理」10～11ページ参照）

- i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）

② 小・中・高等学校を通じて①児童生徒の学びを円滑に接続させるため、小・中・高等学校を通じて一貫した目標・内容、学習過程の在り方について、発達段階に応じてどのように充実を図るか。

別添2:資質・能力の三つの柱に沿った小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理(たたき台)

別添3:(参考)資質・能力を支える基盤としての言語能力向上の観点と外国語教育における改善・充実の方向性

(たたき台)

別添5:「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例

別添6-1:小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

6-2:小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

○外国語教育として、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るか。

※アクティブ・ラーニングの三つの視点(教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照)

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

別添4:資質・能力を育成する学びのプロセスの要素イメージ

別添7:外国語教育の目標と学習過程の全体像(案)イメージ

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

○小・中・高等学校の学習評価の在り方

- ・評価の三つの観点
- ・各学校が設定する学習到達目標(CAN-DO形式を含む)との関係
- ・多様な評価方法(パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等)等

別添7-1:外外国語教育における観点別評価・たたき台(イメージ)案

別添7-2:外国語教育における目標、学習プロセス、評価の構造(イメージ)

4. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 科目構成の見直し(該当する教科のみ)

- 高等学校「外国語」の科目等の見直し
 - ・4技能総合型(必履修科目を含む)の科目、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの「話すこと」及び「書くこと」をより重視した技能統合型の言語活動が中心)の科目の在り方(再掲)
- 高等学校「英語」(専門教科)の科目等の見直し
 - ・「外国語」と同様の枠組みで、内容やレベルを高度化
 - ・特に「話すこと」、「書くこと」において高度な能力を育成するための科目の設置

(2) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

5. 学習・指導の改善充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

※特別支援教育部会資料より【配慮の例】

(外国語活動の例) 音声を聴取することが難しい児童の場合、外国語の音声(音韻)やリズムと日本語との違いに気付くことができるよう、音声を文字で書いてみせる、リズムやイントネーションを記号や色線で示す、指導者が手拍子を打つ、音の高低を手を上下に動かして表すなどの配慮をする。また、活動の流れがわかるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておく。

(2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善充実 (ICTの活用についても触れつつ)

※ 別添 14:外国語教育におけるICTの活用について(たたき台)案

(3) 教材の在り方

6. 必要な条件整備等について(1)

- 教員の英語力・指導力の向上や外国語指導助手等の外部人材の活用などの条件整備
 - ・中教審・教員養成部会等の議論、
 - ・教員養成・研修・採用の在り方 等

外国語 WG におけるとりまとめ(議論の詳細)のイメージ (案)

言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、身近な話題から幅広い話題について、外国語で的確に理解したり適切に表現し伝え合うことができるコミュニケーション能力を養うため、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について、主に次のような事項について検討。

○ 小・中・高等学校を通じて一貫した教育目標(指標形式の目標を含む)・指導内容、学習過程等の在り方

- ・学校が設定する学習到達目標等との整理
- ・指導する語彙数、文法事項、CEFRとの関係整理 等

○ 言語能力を向上させるための国語教育と外国語教育との連携

- ・目標、指導内容・方法等全体に関して
- ・言語の仕組み(音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等)、言語活動 等
- * 言語能力の向上に関する特別チームにおける検討状況を踏まえた整理

○ 小学校の活動型、教科型

- ・論点整理で示された指摘(目標・内容とともに、短時間学習の活用など)

○ 小・中連携

- ・小学校高学年から中学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等

○ 中学校の改善の方向性

- ・互いの考えや気持ちを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視、授業は英語で行うことを基本とする

○ 高等学校の改善の方向性

- ・発表、討論・議論、交渉などの言語活動の高度化
- ・「外国語」の科目の見直し(4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方)
- ・専門教科「英語」の科目の見直し(「外国語」の枠組みを踏襲しつつ、内容・レベルを高度化)

○ 英語以外の外国語の扱い

○ 中・高等学校連携

- ・中学校から高等学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等

小・中・高を通して外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

資質・能力の三つの柱に沿った、平成28年4月26日現在

別 添 2

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
外国語活動 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること ○外国語を聞いたり、話したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
外国語 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の仕組みへの気付き（音、単語、語順など） ○聞くことに関する知識・技能 ○話すことに関する知識・技能 ○外国語を読んだり、書いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
外国語 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働き、役割について理解、外国語の音声、語彙、表現、文法の知識を身に付けている など ○外国語の4技能(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)に関する知識・技能を実際のコミュニケーションの場面で運用 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 など

資質・能力の三つの柱に沿った、平成28年4月26日現在
 小・中・高を通して外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

	個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 （知っていること、できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）
外国語 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）において実際のコミュニケーションで運用する技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面・目的・状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や・社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりするコミュニケーション能力 ○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、場面・目的・状況等に応じて、外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度

など

言語力の育成方策について (報告書案) (平成19年8月16日言語力育成協力者会議配付資料)

(1) 言語の果たす役割

①知的活動(特に思考や論理)の基盤、②感性・情緒の基盤、③他者とのコミュニケーション(対話や議論)の基盤

(2) 指導の充実

◆言語力の育成については、国語科を中核としつつ、すべての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成するための道筋を明確にしていくことが必要。

① 知的活動に関すること

- ・事実を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える技能を伸ばすこと
- ・自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばすこと
- ・考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばすこと

② 感性・情緒等に関すること

- ・感性や情緒は、他者との人間関係の中で育まれていくものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かなものに高めていくものであること

③ 他者とのコミュニケーションに関すること

- ・個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど、お互いの考えを深めていくことが人々の共同生活を豊かなものにする
- ◆発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究などについて認識や実践ができる水準が変化。それに応じて、指導内容や言語活動の特色付けをしていく必要がある。

次期学習指導要領において外国語教育を通じて求められる資質・能力の改善(イメージ)

学習指導要領において、③言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、上記①、②の観点からも求められる資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、外国語教育を改善・充実

- ・身近で簡単な話題について友人に質問したり質問に答えたりする能力(小学校)
- ・互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠を持って英語で伝え合う能力(中学校)
- ・幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力(高等学校)
- ・相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度(小学校)
- ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度(中学校・高等学校)等

思考力
判断力
表現力
等

学びに
向かう力、
人間性等

目的に応じた
コミュニケーションのプロ
セス

目的の設定・理解

目的に応じた
発信までの方向性の決定・言
語活動等の見直し

目的達成のための言語活動
(技能統合型)

言語・内容の両
面におけるま
めと振り返り

次のコミュニケーションにおける目的
的設定・活動へ

※必ずしも一方通行の流れではない

聞くこと

読むこと

話すこと

書くこと

語彙・表現・文法等

複数の技能を統合した活動

プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

思考
意見や考えの形成

判断

表現

目的の理解

目的に応じた情報の抽出

関連する知識や情報の検索

課題について得られた知識や情報を整理・統合

知識や情報を利用して自分の考えを形成・整理

意見や考えの吟味と再構築

多様な見方や考え方に基づいた次の思考プロセスへ

目的の明確化と必要な情報の把握

目的達成に必要な情報の選択

様々な見方や考え方の共通点・相違点等の評価・選択・決定

自分の考えや主張を適切に語彙・表現・文法を用いて効果的に伝えることの意味決定

情報間の関係性を構成

目的に関する論点・解決策の整理

流暢さと正確さのバランス

インタラクティブによる表現

目的に応じて伝え合うことを通じた表現の深化・多様化

「聞くこと」及び「読むこと」を活用した「話すこと」及び「書くこと」による言語活動（図表等による表現も含む）

技能統合型の活動を通じた英語による思考力・判断力・表現力を育成

※2技能以上を効果的に組み合わせる統合的に活用（例）（聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握し、自分の意見や考えなどとの共通点や相違点などを示しながら論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力、与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力、相手からの問いかけに応じて自身の経験や考えを適切に述べる力） など

(案)「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く総合的に育成するとともに、複数の領域を統合的に活用し、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じたコミュニケーションのプロセスを通じて適切に伝えたりする思考力、判断力、表現力。

(例)

〈「聞くこと」の領域〉

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、スピーチ、プレゼンテーション、講義などを聞き、複数の情報を整理するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

〈「読むこと」の領域〉

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、英語で書かれた図表などを読み、複数の情報を整理・統合するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

〈「話すこと」の領域〉

- (発表)多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて話して説明するとともに、自分の意見や考えなどをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に話して伝える力。

- (やり取り)身近な話題や知識のある話題について、情報や意見について交換するとともに、

自分の意見や考えをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて伝え合う力

〈「書くこと」の領域〉

- 多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて、自分の意見や考えなどをまとめ、論点や根拠を明確にしながら、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に書いて伝える力。

〈技能統合の領域〉 (4技能以上を統合的に活用)

- 聞いたり読んだりして得た情報(英文や図表など)について、その概要や要点を的確に把握するとともに、自分の意見や考えなどとの共通点や相違点などを示しながら、論理的・⁵批判的に話したり書いたりして表現する力。

※「技能」と「領域」の考え方については引き続き検討

小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ(案)

平成28年4月26日
 教育課程部会
 外国語ワーキンググループ
 別添7

【高等学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語での確に理解したり、表現し、伝え合ったりすることができる資質・能力を育成する。
- ①外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
- ②場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。
- ③外国語の学習を通じて、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【中学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、簡単な情報や意見交換ができる資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
- ②具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報や意見交換ができるコミュニケーション能力を養う。
- ③他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校高学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、言語の仕組み(音、単語、語順など)や、その背景にある文化を尊重するようにする。
- ②身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校中学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付くとともに、相手意識を持って聞いたり話したりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付く。
- ②外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う
- ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示



高等学校基礎学力テスト
 (仮称)



全国学力・学習状況調査

外国語教育の目標と学習過程の全体像(案) イメージ

次期学習指導要領では、小・中・高等学校を通じて①学校段階間の学びを円滑に接続し、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標(指標形式の目標)などを提示する方向で改善を図る。

今後の方向性

各学校では、学習指導要領に基づき、技能ごとの学習到達目標を設定し、目標に沿った指導及び評価を一体的に実施

教科等の目標の改善・イメージ

小学校 中学年(活動型)	小学校 高学年(教科型)	中学校	高等学校
<p>外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う</p> <p>○自分や身の回りのごく限られたことについて話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと</p>	<p>外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う</p> <p>○身近で簡単な話題 ・話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと ○アルファベットの文字 ・アルファベットの文字を読むこと・書くこと</p>	<p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う</p> <p>○具体的に身近な話題 ・話し手の意向などを理解すること「～できるようにする」 ・自分の考えなどを話すこと ・書き手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを書くこと</p>	<p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う</p> <p>(必修教科目)・身近な話題・4技能の基礎的な能力・日常的话题・関心のある分野・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる英語で適切に伝える (選択科目)・時事的話題や社会問題を含む幅広い話題・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる程度の英語である程度流暢に伝える</p>
<p>(例)「話すこと」 ・自分や身の回りのごく限られたことについて自分の気持ちなどを伝えるようにする。 ・身の回りのごく限られたことについて、定型的表現を使って質疑応答しようとするようにする。</p>	<p>(例)「話すこと」 ・身近で簡単なことについて自分の考えや気持ちなどを初歩的な英語やりとりできるようにする。 ・身近で簡単なことについて与えられたテーマについて初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。</p>	<p>(例)「話すこと」 ・日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。 ・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p>	<p>(例)「話すこと」 ・身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 ・身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ・時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに自分の意見を加えて話すことができるようにする。</p>
<p>○ 目的の設定・理解 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。 ○ 目的達成のための活動・使用表現について理解したり練習したりする活動・互いの考えや気持ちの伝え合い活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 ・児童生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの動きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り</p>	<p>○ 目的の設定・理解 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちの伝え合い活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 ・家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの動きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り</p>	<p>○ 目的の設定・理解 具体的な身近な話題の概要・要点を理解し、考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な情報交換をしたりする。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※具体的な場面にあった適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面ですべての意味で活用したりするなどスバイラルに学ぶ ※ペアワークやグループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面(挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話での応答) ・生徒の身近な暮らしにかかわる場面 ・家庭生活、学校での学習・活動、地域行事 [言語の動きの例] ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り ・言語面でのまとめと振り返り ・内容面でのまとめと振り返り</p>	<p>○ 目的の設定・理解 学校や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を理解し、情報や考えなどを伝えることができる。 ○ 目的達成のための活動 ・幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解する活動 ・幅広い話題について発表、討論、議論、交渉などを行う活動 [コミュニケーション能力の設定] ・4技能の基礎的な能力(必修教科目) ⇒ 的確に理解し、適切に伝える能力(必修教科目及び選択科目) ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語(必修教科目) ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(選択科目) [話題の設定] 身近な話題及び日常的な話題や関心のある分野(必修教科目) ⇒ 時事的な話題や社会問題など(選択科目) ⇒ 情報や考えなどのやりとりに関する言語活動の設定 ・スピーチやプレゼンテーション等 ⇒ デイボードやディスプレイ等 ※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる 場面や文脈で活用できるようにするなど、スバイラルに学習する ※具体的な場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※ペアワークやグループワークを学習形態の基本とする ○ まとめとふり返り ・言語面でのまとめと振り返り(流暢さを重視したスピーキングの後で行う正確さをより重視したライティング(質的な高まり)など) ・内容面でのまとめと振り返り(得られた情報や考えの整理など)</p>

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習プロセス」を経ることで、思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現に慣れ親しみ、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりしようとするとコミュニケーション能力の素地

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などに、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力の基礎

中学校

○具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするとする。

小学校(高学年)

(例)
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようになる。

中学校

(例)
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようになる。

高等学校

(例)
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようになる。

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

【見方や考え方の例】

外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現し伝え合うこと



目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習プロセス】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し
- ③ 目的達成のための言語活動(技能統合型)
- ④ まとめと振り返り

次の活動へ

※詳細は次ページ参照

「見方や考え方」の成長・発展

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力の育成

情意・態度の育成

・対話的な学び
・深い学び
・主体的な学びへ

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

資質・能力の例について
○簡単な語句や表現に慣れ親しみ、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりしようとするコミュニケーション能力の素地

○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活等について、友達に質問したり、質問に答えたりするコミュニケーション能力の基礎

○具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力

○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

目的の設定・理解

小学校 (中学年)
① 【目的の設定・理解例】
簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。

小学校 (高学年)
① 【目的の設定・理解例】
馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。

中学校
① 【目的の設定・理解例】
具体的に身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、簡単な情報交換をしたりできる。

高等学校
① 【目的の設定・理解例】
日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し

③ 【目標達成のための活動例】
使用表現について理解したり、練習したりする活動や、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動や、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動や、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動

③ 【目標達成のための活動例】
言語材料について練習したり、アルファベットの文字や単語等の認識を深めたりする活動

③ 【目標達成のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動

③ 【目標達成のための活動例】
幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動

目的達成のための言語活動 (技能統合型)

④ 内容面でのまとめと振り返り (得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験したの感想など)

④ 言語面でのまとめと振り返り (活用した言語表現等について含む)

④ 言語面でのまとめと振り返り (話して伝えたことをより正確に書くなど)

④ 言語面でのまとめと振り返り (話し合ったことや発信したこと、の整理など)

言語・内容の画面におけるまとめと振り返り

④ 内容面でのまとめと振り返り (得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験したの感想など)

④ 言語面でのまとめと振り返り (活用した言語表現等について含む)

④ 言語面でのまとめと振り返り (話して伝えたことをより正確に書くなど)

④ 言語面でのまとめと振り返り (話し合ったことや発信したこと、の整理など)

④ 言語面でのまとめと振り返り (話し合ったことや発信したこと、の整理など)

※必ずしも一方通行の流れではない

次期学習指導要領の3・4年生の年間指導計画 イメージ(案) たたき台

別添 9

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

平成27年12月21

小学校3年生外国語活動週1コマ (Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)				
単元名	時間	題材	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Hello!	3	世界の言語 挨拶	・世界には様々な言語があることに気付く。英語でのあいさつの表現に慣れ親しみ、自分の名前を言って挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 I'm happy.	2	外国のジェスチャー ジェスチャー 感情・様子	・表情やジェスチャーをつけて相手に感情や様子を伝えようとする。	1-L2
Lesson 3 How many apples?	4	教え方 数	・数の言い方に慣れ親しみ、身の回りのものを数えようとする。	1-L3
Lesson 4 My rainbow	5	世界の虹の色 色 I like ~. Do you like ~?	・英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付く。好きなものを表わしたり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L4 1-L5
Lesson 5 絵本教材 活用単元	5	動物の鳴き声の聞こえ方 動物・体の部位 位置	・言語によって動物の鳴き声の表し方が違うことに気付くとともに、動物、体の部位、位置の言い方に慣れ親しみ、まとまりのある話を聞いてその概要を理解しようとする。	2-L7
Lesson 6 This is my favorite.	4	食べ物・野菜 What do you like?	・食べ物や色などの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、何が好きなかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 7 My name	4	アルファベット大文字 What do you want?	・アルファベットの読み方や、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 8 Welcome to our museum	4	形・色 形状を表す語 What do you want?	・欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 9 Who am I?	4	動物 形状・様子を表す語	・動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、あるものについて尋ねたりしようとする。	1-L7

小学校4年生外国語活動週1コマ (Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)				
単元名	時間	題材	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Nice to meet you.	4(4)	世界の言語・挨拶 アルファベット小文字 What do you want?	・様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、初めてであった人との挨拶の仕方に慣れ親しむ。	1-L1
Lesson 2 Turn right.	4(8)	外国の学校 教室 学校	・学校の中のものや教室名の言い方に慣れ親しみ、友達を案内しようとする。	2-L5
Lesson 3 How many?	4(12)	昆虫・動物 身の回りの物 How many?	・身の回りのものや数の言い方に慣れ親しみ、身の回りの物の数を尋ねたり答えたりしようとする。	1-L3
Lesson 4 What's this?	5(17)	アルファベット大小文字 What's this?	・世界には様々な文字があることや、身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付く。身の回りのものや、あるものが何かを尋ねる表現に慣れ親しみ、あるものが何かを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L5
Lesson 5 Good morning!	5(22)	動作 気持ちを表す語	・動作や気持ちを表す言い方に慣れ親しみ、まとまりのある話を聞いてその概要を理解したり、場面にあったセリフを言ったりしようとする。	2-L7
Lesson 6 This is for you.	4(26)	アルファベット大小文字 身の回りの物 What ~ do you like?	・アルファベットの文字の読み方や身の回りのものの言い方、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 7 Ten years!	4(30)	気持ちを表す語 身の回りの物 職業 It's ~.	・気持ちを表す語や身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、大事にしているものについて紹介したり、聞いたりしようとする。	1-L2
Lesson 8 What's this? Quiz Show	5(35)	動物 形状を表す語 色・形状 What's this?	・形・色・形状等の語いやそれらに関する表現に慣れ親しみ、あるものについて説明しようとする。	1-L7

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

平成28年1月12

小学校5年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材等	目標例(二重下線部は、HFに設定されていない部分)	評定の開通・フラスコし時期
Lesson 1 Hello, everyone.	5(5)	挨拶・自己紹介 I like / don't like ~. 反応	・自分のことについて <u>簡単に紹介できるようにする</u> とともに、自分のことについて相手意識をもって伝え合おうとする。	1-L1 ③
Lesson 2 Do you have "a"?	8(13)	身の回りの英語表記 アルファベット大小文字 Do you have ~?	・身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことや、 <u>アルファベットには読み方と音があることに気付き、アルファベットの文字を読んだり、あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、アルファベット表記に関するクイズについて <u>アルファベットの文字を読んだり書き写したり、あるものを持っているか尋ねたり答えたりしようとする。</u> (別資料:青字部分のねらい達成補完のための短時間学習を含む本単元計画)	2-L1 ④
Lesson 3 When is your memorial day?	8(21)	月日・季節 When is ~? Why?	・世界には様々な行事があることに気付き、 <u>日程を尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分の大切な日について理由を含めて伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	2-L2 ④
Lesson 4 This is ME!	8(29)	スポーツ・楽器 身の回りのもの・動作 I can ~. Can you ~?	・人それぞれであることに気付き、 <u>物語のあらすじを聞き取ったり、できることを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、自分のできることやできないことを伝え合い、 <u>丁寧にアルファベットの文字を書き写そうとする。</u>	2-L3 ④
Lesson 5 Turn right.	7(36)	建物 道案内 Where is ~?	・世界の町の様子から日本との相違点に気付き、 <u>道を尋ねたり、道案内したりできるようにする</u> とともに、相手意識をもって道案内したり、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	2-L4 ④
Lesson 6 This is our town!	8(44)	自然 食べ物 特産物等 This is ~.	・自分たちの町の様子から、世界との共通点に気付き、 <u>自分たちの住む町について伝え合うことができるようにする</u> とともに、自分たちの住む町のお薦めを相手意識をもって紹介しようとして、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	新規 ⑧
Lesson 7 My school schedule	8(52)	教科名 曜日 身の回りのもの I study ~ on Monday.	・世界の同年代の子供の学校生活から自分たちとの相違点や共通点、 <u>単語はアルファベットの文字がまとまってできていることに気付き、学校生活について説明があったり、正確にアルファベットの文字を書いたりできるようにする</u> とともに、お気に入りの時間を入れた時間割を伝え合ったりしようとする。	1-L8 ③
Lesson 8 Healthy menu	8(60)	食べ物 食習慣 What would you like?	・世界には様々な食生活があることに気付き、 <u>丁寧に欲しい物を尋ね、答えたり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにする</u> とともに、健康に良い食事について、伝えようとする。	1-L9 ④
Lesson 9 We are good friends.	10(70)	世界の童話 日本の童話 Let's ~.	・世界には子供たちに様々な願いを込めて書かれた童話等があることや、 <u>アルファベットの文字がまとまって単語になることに気付き、まとまった英語の物語を聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言ったり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにする</u> とともに、英語で物語の内容を伝えようとする。	2-L7 ④

【短時間学習の例・イメージ】
例えば、Lesson 3
自分の大切な日について

○季節・月日などの語彙や日程を尋ねたり答えたりする表現を使う
主な目標と活動

・「チャンツ」を通して、季節・月日などの単語に慣れる。
・「ステレオゲーム」を通して、月日などの単語や日程の尋ね方を使えるようにする。
・補助教材ワークシートなどを活用してアルファベットの文字を丁寧に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考え

小学校6年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材	目標例	評定の開通・フラスコし時期
Lesson 1 Hello, nice to meet you.	5(5)	挨拶 自己紹介 I'm ~.	・世界には様々なあいさつの仕方があることに気付くとともに、 <u>簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、自分について相手意識をもって伝えあったりしようとする。	1-L1 ③
Lesson 2 This is our school.	8(13)	教室名 身の回りの物 形状・気持ちを表す語 I like ~.	・世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、 <u>自分の学校について簡単に説明したり、学校名を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分たちの学校について自分の考えを伝えあったりしようとする。</u>	2-L4 ④
Lesson 3 Let's go to Italy.	8(21)	世界の国々 生活 I want to go to ~.	・世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付き、 <u>行ってみたい国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、お薦めの国について相手意識をもって伝えあったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-L5 ④
Lesson 4 Welcome to our country.	8(29)	日本の特徴 ~ is ~.	・日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付き、 <u>日本について伝えることができるようにする</u> とともに、 <u>日本の良さについて自分の考えを相手意識をもって簡単に紹介し合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする。</u>	新規 ⑧
Lesson 5 What time do you get up?	8(37)	一日の生活 時刻 I get up at 7:00.	・世界の人々は様々な課題や、 <u>英語の語順に気付き、まとまった内容の話を聞いて理解し、自分のできることを伝え合い、単語を正確に描き写したりできるようにする</u> とともに、世界の様々な課題に対して自分ができることを伝え合ったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-L6 ③
Lesson 6 A letter to	8(45)	動物 ~ is chasing ~.	・世界の様々な課題や、 <u>英語の語順に気付き、まとまった内容の話を聞いて理解し、自分のできることを伝え合い、単語を正確に描き写したりできるようにする</u> とともに、世界の様々な課題に対して自分ができることを伝え合ったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-L3・L7 ⑧
Lesson 7 My memorial event	8(53)	学校生活 My memorial event is ~.	・世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付き、 <u>6年間の小学校生活について自分の考えを伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるようにする</u> とともに、 <u>思い出に残る行事についてその理由を含めて伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</u> (下線部のねらい達成補完のための短時間学習を含む本単元計画)	新規 ⑧
Lesson 8 What do you want to be?	8(61)	職業 気持ちを表す語 I want to be a teacher.	・世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付き、 <u>つきたい職業について伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるようにする</u> とともに、自分の将来について伝え合ったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-L7 ④
Lesson 9 Junior High School Life	9(70)	中学校生活 I want to enjoy ~.	・ <u>中学校生活についてのまとまった話を理解し、自分の考えを表現したり、単語を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、 <u>中学校生活の期待について相手意識をもって簡単なスピーチをしたり、単語を推測して読んだりしようとする。</u>	新規 ⑧

【短時間学習の例・イメージ】
例えば、Lesson 6
学校行事について
主な目標と活動

○思い出の学校行事について自分の考えを表現するとともに、思い出の学校行事名を正確に書き写すことができる。

・「学校行事かるた取りゲーム」を通して、学校行事を表す単語に慣れる。
・「チャンツ」を通して、行事の言い方を使えるようにする。

・「学校行事名の文字をなぞる」活動を通して文字を正確に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、

意味のある場面設定の中で、「深まりのある

小学校5年生外国語活動週1コマ			
単元名	題材	単元目標例	設定学年
Lesson 1 Hello! ②	世界の言語 挨拶	・挨拶をしようとする。 ・英語での挨拶や、自分の名前の方の言い方に慣れ親しむ。 ・世界には様々な言語があることを知る。	3
Lesson 2 I'm happy. ②	ジェスチャー 感情・様子	・表情やジェスチャーをつけて相手に感情や様子を伝えようとする。 ・感情や様子を表わしたり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・表情やジェスチャーなどの言葉によらないコミュニケーションの大切さや、世界には様々なジェスチャーがあることに気付く。	3
Lesson 3 How many? ④	数 身の回りの物	・数を数えたり、尋ねたりしようとする。 ・1～20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 ・言語には、それぞれの特色があることを知る。	3
Lesson 4 I like apples. ⑤	果物 食べ物・飲み物 スポーツ 生き物	・好きなものや嫌いなものについて、伝えようとする。 ・好きなものや嫌いなものを表わしたり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の音の違いに気付く。	3
Lesson 5 What do you like? ④	色 形	・好きなものについて、尋ねたり答えたりしようとする。 ・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の音の違いに気付く。	4
Lesson 6 What do you want? ⑤	アルファベットの 大文字 数字 身の回りの物	・アルファベットの大文字を読んだり、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 ・アルファベットの文字とその読み方とを一致させ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・身の回りにアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気付く。	4
Lesson 7 What's this? ④	身の回りの物	・ある物についてそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。 ・ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。	3
Lesson 8 I study Japanese. ⑤	教科 曜日	・時間割について尋ねたり答えたりしようとする。 ・時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しむ。 ・世界の小学校の学校生活に興味をもつ。	5
Lesson 9 What would you like? ④	食べ物・料理	・欲しいものについて丁寧に尋ねたり答えたりしようとする。 ・欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。 ・世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。	4

小学校6年生外国語活動週1コマ			
単元名	題材	目標例	設定学年
Lesson 1 Do you have a? ④	世界の言語の文字 アルファベット小文字 数字	・誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとする。 ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。	5
Lesson 2 When is your birthday? ④	月日	・誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとする。 ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。	4・6
Lesson 3 I can swim. ④	動作 スポーツ 楽器	・友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。 ・「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 ・言語や人、それぞれに違いがあることを知る。	5
Lesson 4 Turn right. ④	建物 道案内	・道を尋ねたり、道案内したりしようとする。 ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ・英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。	4・5
Lesson 5 Let's go to Italy. ④	国名 生活	・自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの数について発表したり、友達の発表を聞いたりしようとする。 ・行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。	6
Lesson 6 What time do you get up? ⑤	世界の国々 動作	・自分の一日を紹介したり、友達の日を聞き取ったりしようとする。 ・生活を表す表現や、一日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・世界には時差があることに気付く、世界の様子に興味をもつ。	6
Lesson 7 We are good friends. ⑥	世界の童話 日本の童話	・英語で物語の内容を伝えようとする。 ・まとまった英語の話聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言う。 ・世界の物語に興味をもつ。	5
Lesson 8 What do you want to be? ④	職業 将来の夢	・自分の将来の夢について交流しようとする。 ・どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・世界には様々な夢をもつ同年代の子がいることを知り、英語と日本語での職業を表わす語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気付く。	6

聞くこと		A1	A2	B1	B2
CEFR 自己評価表 (参考)		はつきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語でごく基本的な表現を聞き取れる。	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はつきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はつきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語の映画なら、大多数は理解できる。
想定される 学校種・教科、科目等	小学校中学年・外国語活動 + 小学校高学年・外国語	小学校高学年・外国語 + 中学校・外国語	中学校・外国語 + 高等学校・外国語、必修教科目	高等学校・外国語、選択科目	(高等学校・外国語、選択科目 + 専門教科、英語等)
国の指標形式の 主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりはつきりと、繰り返して話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表すごく簡単な文や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ○ゆっくりはつきりと、繰り返して話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりはつきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○比較的問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはつきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な話題の長い会話の概要・要点理解 ○複雑な議論における話の展開や論点の理解 ○時事問題や社会問題に関する説明の概要・要点理解 ○ある程度知識のある話題のラジオ番組やテレビ番組の概要・要点理解 など
授業における主な 言語活動 (言語の使用場面の例)	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの発音を聞いて、文字と結び付ける。 ・挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて、それらに応じる。 ・身近な人物、身の回りの事物などに関するごく簡単な英語を聞いて、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や簡単な指示の理解と反応 ○日常生活における基本的な情報の理解 ○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明における必要な情報の聞き取り など 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージの理解と反応 ○簡単なアナウンスからの情報取得 ○身の回りの事柄に関する平易で短い会話や説明の概要・要点理解 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を整理して比較する。 ・時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、必要な情報を得るとともに、得た情報を当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。 ・馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、必要な情報を得るとともに、それを他者に口頭で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な話題の長い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を理解する。 ・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解するとともに、各話者の主要な論点を整理して比較する。 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、概要や要点を理解するとともに、得た情報を当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。 ・ある程度知識のある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、得た情報を得るとともに、それを他者に口頭で伝える。
言語の働きの例	<ul style="list-style-type: none"> 〈コミュニケーションを円滑にする〉 ・相づちを打つ ・褒める ・説明する ・申し出る ・相手の行動を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・言い換える ・繰り返す ・謝る ・報告する ・賛成する ・誘う ・許可する ・頼む ・依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> ・話題を発展させる ・訂正する ・要約する ・推論する ・命じる ・注意を引く ・話題を変える ・心配する ・訂正する ・仮定する ・注意を引く 	各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択	
言語活動の例 (共通話題： フェアトレード)	<p>国名と食品名を表す単語を聞いて、それらを表すイラストと結び付けるとともに、国名とその国で生産量が多いと思われる食品名とを結び付ける。</p>	<p>イラストや写真を参考にしながら、お茶、コーヒー、綿などの農産品の主な生産国と生産者の収入に関する説明を聞いて、得た情報を表にまとめ</p>	<p>サッカーボールの生産事情(生産国や生産者など)に関する説明を聞いて、その歴史や問題点を整理するとともに、日常生活においてフェアトレードが必要な他の商品に関する説明を聞いた</p>	<p>日本におけるフェアトレード市場の歴史、現状、課題に関する説明を聞いて、必要な情報を得るとともに、それに基づいて、日本におけるフェアトレード市場拡大のためにどのような方策が有効であるかについて意見を出し合う。</p>	<p>自国のフェアトレード市場について話している会話を聞いて、各話者の国に関する情報を整理するとともに、国民一人当たりの認証製品購入額が高い国々の状況に関する説明を読んだ上で、日本においてフェアトレード市場を拡大するための方策についてプレゼンテーションを行う。</p>

書くこと					
	A1	A2	B1	B2	
(参考) CEFR 自己評価表	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 短い個人的な手紙など書くことができる。例えば私信で経験や印象を書くことができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 私信で経験や印象を書くことができる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	
想定される 学校種・教科、科目等	小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語	中学校・外国語 ＋ 高等学校・外国語、必修教科目	高等学校・外国語、選択科目	(高等学校・外国語、選択科目 ＋ 専門教科、英語等)	
国の指標形式の 主な目標	□目的を持ってアルファベットの大文字と小文字を活字で書くことができるようにする。 □例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。	□自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 □身近な事柄について、簡単な語句や表現や用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 □聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。	□自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 □関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 □関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。	□関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 □時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 □時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 □Eメール、エッセイ、レポートなどを、それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。	
授業における主な 言語活動 (言語の使用場面の例)	○アルファベットの大文字・小文字 ○語間の区切りに留意した文(書き写し) など ・発音されたアルファベットの大小文字・小文字を活字で書く。 ・語と語の区切りに注意して、身近な事柄に関するごく簡単な文を書き写す。	○符号や語間の区切りに留意した簡単な挨拶 ○自分に関する基本的な情報 ○慣れ親しんだ語句を活用したごく身近な事柄や出来事の説明 など ・符号や語と語の区切りに注意しながら、定型表現を用いて、簡単な挨拶文などを書く。 ・名前、年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を文で書く。 ・慣れ親しんだ語句を活用して、ごく身近な事柄や出来事、自分の経験したことなどを説明する文を書くとともに、それを口頭で伝え合う。	○身近な事柄に関する説明 ○関心のあるテーマに関する記事や資料の要約 ○関心のあるテーマに関する説明と意見・理由 ○目的に応じたメモ、アウトライン、原稿 など ・身近な事柄に関する説明文を、文のつながりや文章全体の構成などに注意して書く。 ・関心のある時事問題や社会問題に関する記事や資料を読んで、内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら要約文を書く。 ・関心のある時事問題や社会問題の内容を具体的に伝える説明文を書くとともに、賛否を明確にしながら、自分の意見やその理由を書く。 ・書いた文章を読み返し、表現や文法の適切さなどに留意して推敲する。 ・目的に応じてメモ、アウトライン、原稿を書き、それらを活用してスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッションなどを行う。	○関心のあるテーマについての詳細な説明 ○幅広い話題に関する記事や資料の要約 ○幅広い話題に関する説明と意見・理由 ○目的に応じたメモ、アウトライン、原稿 など ・関心のある分野のテーマについて、明確に事実を解説したり情報を伝えたりする詳細な説明文を書く。 ・時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら要約文を書く。 ・関心のある時事問題や社会問題の内容を具体的に伝える説明文を書くとともに、賛否を明確にしながら、自分の意見やその理由を書く。 ・書いた文章を読み返し、表現や文法の適切さなどに留意して推敲する。 ・目的に応じてメモ、アウトライン、原稿を書き、それらを活用してスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッションなどを行う。	
言語活動の例 (共通話題：日常生活・時間の有効活用)	(コミュニケーションを円滑にする) ・相づちを打つ ・褒める ・説明する ・申し出る ・依頼する 日常生活における人の行動を表すイラストや写真と英語表現とを結び付け、学習した単語や文を書き写す。	(コミュニケーションを円滑にする) ・相づちを打つ ・褒める ・説明する ・申し出る ・依頼する 日常生活における人の行動を表すイラストや写真と英語表現とを結び付け、学習した単語や文を書き写す。	各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択	日本でサマータイムを導入した場合に予想されるメリット・デメリットについて、資料を活用しながら自分の意見を書き、日本にサマータイムを導入すべきかどうかについて、グループでディスカッションを行う。	

読むこと					
	A1	A2	B1	B2	
(参考) CEFR 自己評価表	例えば、掲示やポスター、カタログの中がよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のよなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	
想定される 学校種・教科、科目等	小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語	中学校・外国語 ＋ 高等学校・外国語、必修教科目	高等学校・外国語、選択科目	(高等学校・外国語、選択科目) ＋ 専門教科、英語 等)	
国の指標形式の 主な目標	<ul style="list-style-type: none"> □ ごく身近にある アルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 □ 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表す単語を見て、その意味を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができようようにする。 □ 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 □ 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができようようにする。 □ 短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 □ 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 □ 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができようようにする。 □ 興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 □ 時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。 	
授業における主な 言語活動 (言語の使用場面の例)	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルファベットの文字の識別 (大文字・小文字を含む) と発音 ○ ごく身近で具体的な事物を表す単語の意味の理解 など ・ アルファベットの文字を見て、それが何かを識別する (大文字・小文字の識別を含む)。 ・ アルファベットの文字を見て、適切に発音する。 ・ 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表す単語を見て、その意味を推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平易で短いテキストのスキヤニング ○ 平易で短い物語のあらすじ理解 ○ 平易で短い説明のスキミング など ・ 平易な表現が用いられている広告、パンフレット、予定表などから、自分が必要とする情報を得る。 ・ 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、おおよそのあらすじを理解する。 ・ 友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短い説明のスキヤニング ○ 短い物語のあらすじ理解 ○ 時事問題や社会問題に関する平易な説明などのスキヤニングやスキミング、詳細理解 など ・ 比較的短い記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を得る。 ・ 短い物語を読んで、あらすじを理解して、それを口頭で他者に伝える。 ・ 時事問題や社会問題について情報を得るために効果的な資料を自分で探し、それを読んで概要を理解する。 ・ 資料などを読んで得た情報や英語表現を、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い話題を扱った英文のスキヤニングやスキミング ○ 現代小説や随筆の概要理解 ○ 時事問題や社会問題に関する説明などのスキヤニングやスキミング、詳細理解 など ・ 幅広い話題を扱った記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を得る。 ・ 比較的簡単な現代小説や随筆を読んで、概要を理解するとともに、あらすじや感想を簡単に書いてまとめる。 ・ 時事問題や社会問題について幅広く情報を得るために効果的な資料を自分で探し、必要となる情報の取得、概要理解、詳細理解など、目的に応じた読み方をする。 ・ 資料などを読んで得た情報や英語表現を、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ダイベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。 	
言語の働きの例	<ul style="list-style-type: none"> 〈コミュニケーションを円滑にする〉 ・ 相づちを打つ ・ 褒める ・ 説明する ・ 考えや意図を伝える ・ 相手の行動を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題を発展させる ・ 話題を変える など ・ 訂正する など ・ 仮定する など ・ 注意を引く など 	各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択		
言語活動の例 (共通話題： ユニバーサルデザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通手段や公共施設に関する単語を見て、単語とそれが表すイラストや写真とを結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のユニバーサルデザインの具体例を紹介し、説明を読んで、イラストや写真を参考にしながら概要を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外のユニバーサルデザインの具体例を複数紹介した説明をグループで分担して読んで、自分が読んだ内容を他者に伝えるときにも、日本に取り入れた方がよいと思われるものについて、その理由などを含めて簡単な意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外のユニバーサルデザインが生かされた多くの事例について各自で資料を探して読んで、どのような配慮がなされているかについて整理をした上で互いに情報を伝え合うとともに、今後どのようなユニバーサルデザインが必要となるかについて意見を話し合う。 	
言語活動における他教科との連携（例）	<ul style="list-style-type: none"> 【題材】 小学校「社会」「生活」 中学校「社会」 	<ul style="list-style-type: none"> 【題材】 中学校「社会」 高等学校「公民」 【活動（意見交換）】 中学校「国語」 高等学校「国語」 	<ul style="list-style-type: none"> 【題材】 高等学校「公民」 【情報収集】 高等学校「情報」 【活動（意見交換）】 高等学校「国語」 	<ul style="list-style-type: none"> 【題材】 高等学校「公民」 【情報収集】 高等学校「情報」 【活動（プレゼンテーション）】 高等学校「国語」 	

話すこと（やりとり）					
	A1	A2	B1	B2	
<p>(参考) CEFR 自己評価表</p>	<p>相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えた りしてくれて、また自分が言いたいことを表現す るのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取 りをすることができ る。 直接必要なことやごく身近な話題についての簡 単な質問なら、聞いたり答えたりできる。</p>	<p>単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取り が必要ならば、身近な話題や活動について話し合 いができる。 通常は会話を続けていくだけの理解力はないの だが、短い社交的なやり取りをすることはでき る。</p>	<p>当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいについて の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事 など、日常生活に直接関係のあることや個人的な 関心事について、準備なしで会話に入ることがで きる。</p>	<p>流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と 普通にやり取りができる。 身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自 分の意見を説明し、弁明できる。</p>	
<p>想定される 学校種・教科（科目）等</p>	<p>小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語</p>	<p>中学校・外国語 ＋ 高等学校・外国語（必修教科目）</p>	<p>高等学校・外国語（選択科目）</p>	<p>高等学校・外国語（選択科目） ＋ 専門教科英語 等</p>	
<p>国の指標形式の 主な目標</p>	<p>□挨拶やごく短い簡単な指示に回答することが できるようにする。 □相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言 い換える、自分が言いたいことを表現するの に助け船を出してくれる など）があれば、自分 に関することについてごく簡単な質問に答え ることができるようにする。</p>	<p>□日常生活や自分に関連した事柄に関する短い 簡単なやりとりをすることができるようになる。 □身近な話題や興味関心のある事柄について、あ る程度準備をすれば、会話に参加することがで きるようになる。 □身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単 な意見交換をすることができるようになる。</p>	<p>□公共の場所（店、駅など）において、自分の問 題を説明し、解決することができるようになる。 □身近な話題や興味関心のある事柄について、準 備をしないで会話に参加することができるよう になる。 □身近な話題や知識のある話題について、簡単な 英語を用いて情報や意見を交換することがで きるようになる。</p>	<p>□幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分 の意見などを適切かつ流暢に表現することが できるようになる。 □知識のある時事問題や社会問題について、幅広 い表現を用いて議論することができるよう になる。</p>	
<p>授業における主な 言語活動 (言語の使用場面の例)</p>	<p>○挨拶 ○ごく簡単な質疑応答 ○初対面の人や知り合いと簡単な挨拶を交わす。 ○ごく短い簡単な指示に応じる。 ○自分に関するごく簡単な質問に答えたり、相手 についてごく簡単な質問をしたりする。</p>	<p>○簡単な表現を用いた短い会話 ○簡単な意見交換 など ○身近な話題について、ある程度準備をした上で、 短い会話を ○身近な話題について、聞いたり読んだりしたこ とに基づき、ある程度準備をした上で、得た情 報や自分の考えや気持ちなどを伝え合う。</p>	<p>○簡単な英語を用いたダイアログ ○簡単な英語を用いたダイアログ ○身近な話題の会話において、準備をしないで自 分の考えや気持ちなどを表現する。 ○身近な暮らしにかかわる多様な考え方ができ る話題について、立場を決めて意見をまとめ、相 手を説得するために意見を述べ合う。 ○身近な話題や知識のある時事問題や社会問題に ついて、聞いたり読んだりしたことに基づき、情 報や自分の意見などを述べ合うとともに、相 手の発言について質問したり意見を述べたり する。</p>	<p>○幅広い表現を用いたダイアログ ○幅広い表現を用いたダイアログ ○幅広い話題の会話や議論において、適切に発言 の機会を獲得して情報や自分の意見などを表 現する。 ○幅広い話題の会話や議論において、人の発言を 誘ったり、相手や自分の理解を確認したり、話 を展開・発展させたりする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題の議論にお いて、聞いたり読んだりしたことに基づき、情 報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現す るとともに、互いの発言を検討し、課題の解決 に向けて考えを生かす。</p>	
<p>言語の働きの例</p>	<p>〈コミュニケーションを円滑にする〉 ・相づちを打つ ・褒める ・説明する ・考えや意図を伝える 〈相手の行動を促す〉 ・相づちを打つ ・褒める ・謝る ・報告する ・申し出る ・依頼する ・聞き直す ・繰り返す ・望む ・理由を述べる ・反対する ・誘う ・許可する ・助けを要する ・命を懸ける など</p>	<p>・話題を発展させる ・心配する など ・要約する ・訂正する など ・推論する ・仮定する など ・注意を引く など</p>	<p>各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択</p>		
<p>言語活動の例 (共通話題：食)</p>	<p>食べ物好き嫌いについて、尋ねたり答えたりす る。 食べ物好き嫌いについて、理由なども含めて互 いに質疑応答する。また、相手から得た情報を他 者に伝える。</p>	<p>健康な食生活を送るために大切だと思うことや 食の安全に関して留意していることについて、あ る程度の準備をした上で簡単な意見交換をする。</p>	<p>遺伝子組換え食品に関する議論を賛成・反対の立 場に付けて整理し、得た情報を交換するととも に、遺伝子組換え食品の是非についてダイアログ を行う。</p>	<p>遺伝子組換え食品に関する幅広い議論をリサー チ・整理し、それに基づいて、今後の市場におけ る遺伝子組換え食品の在り方についてディスカ ッションを行う。</p>	

話すこと（発表）

	A1	A2	B1	B2
CEFR 自己評価表 (参考)	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。 時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。
想定される 学校種・教科（科目）等	小学校高学年・外国語 + 中学校・外国語	中学校・外国語 + 高等学校・外国語（必修教科科目）	高等学校・外国語（選択科目）	高等学校・外国語（選択科目） + 専門教科英語 等
国の指標形式の 主な目標	□簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 □日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 □ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。	□身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 □身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 □身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。	□身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 □身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 □関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。 □知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。	□幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 □幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 □多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 □聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。
授業における主な 言語活動 (言語の使用場面の例)	○簡単な語句や文を用いた自己紹介 ○日常生活における基本的な情報 ○ごく身近な事柄についての短い簡単なスピーチ など ・簡単な語句や文を用いて、自分の趣味や特技などを含めた自己紹介をする。 ・時刻、日時、場所など、日常生活における基本的な情報を伝える。 ・ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちを含めて短い簡単なスピーチをする。	○身近な事柄に関する短いスピーチ など ・自分に関することや身の回りのことについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明する。 ・自分や友人、学校生活などの身近な事柄や出来事に関する情報を伝える。 ・身近な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、自分の意見・主張やその理由を含めて短いスピーチをする。	○身近な事柄についての説明やスピーチ（即興準備あり） ○記事、資料などの概要・要点説明 ○時事問題や社会問題に関するプレゼンテーション など ・自分、友人、学校生活、地域社会などの身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明する。 ・身近な話題や関心のある事柄について、関連情報や具体例などを加えながら、まとまりのあるスピーチをする。 ・関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料などを読んで、伝えるべき事項を整理した上で、概要や要点を発表する。 ・時事問題や社会問題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、自分の意見・主張やその理由を論理的に伝えるプレゼンテーションをする。	○幅広い話題についての説明やスピーチ（即興準備あり） ○時事問題や社会問題に関するプレゼンテーション ○話す速度や使用する表現の調整 など ・幅広い話題について、即興で、概要を説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりする。 ・幅広い分野のテーマについて、関連情報や具体例などを加えながら、明瞭かつ詳細なスピーチをする。 ・多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、聞いたり読んだりしたことに基づいて情報を整理し、様々な見方の長所・短所を示しながら自分の意見・主張やその理由を論理的に伝えるプレゼンテーションをする。 ・聴衆の反応や理解度を確認しながら話し、必要に応じて、話す速度や使用する表現などを変え
言語の働き の例	〈コミュニケーションを円滑にする〉 ・相づちを打つ ・褒める ・説明する ・申し出る ・依頼する 〈気持ち伝える〉 ・謝る ・報告する ・賛成する ・誘う 〈考えや意図を伝える〉 ・相づちを打つ ・聞き直す ・聞き返す ・繰り返す ・言い換える ・驚く ・理由を述べる ・反対する ・許可する ・頼む ・承諾する ・依頼する	・話題を発展させる ・話題を変える など ・心配する など ・要約する ・訂正する など ・推論する ・仮定する など ・注意を引く など	各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択	
言語活動の例 (共通話題： 職業、職業選択)	興味のある職業や将来就きたいと思っている職業を伝える。 将来就きたいと思っている職業とその理由、その職業が具体的にどのような仕事をするかなどについて、準備をした上で簡単に発表する。	日本では認知度が低い職業、その分野で活躍している国内外の人物などについて読んで情報をまとめ、アウトラインを作成した上で発表する。また、発表内容に関する質問に答える。	将来の職業選択において重要視したい条件とその理由を具体的に説明するとともに、ワークライフバランスなどの視点も含め、どのような社会人生活を理想と考えるかについてプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーションの内容について質疑応答を行う。	職場で起こり得る勤務上の問題（勤務体系、業務量、業務分担など）について、グループごとに与えられた立場（社員、上司など）から解決策を出し合い、互いが合意できる結論をまとめて発表する。また、各グループからの発表を踏まえ、課題解決型のロール・プレイを行う。

外国語教育における観点別評価・たたき台（イメージ）案

評価の観点（論点整理）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 外国語活動	<p>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。</p> <p>○外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付いている。</p>	<p>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりして表現している。</p>	<p>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○言語の大切さや、文化の違いに気付き、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
小学校 外国語	<p>○外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>○外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化などに気付いている。</p>	<p>○馴染みのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りのことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。</p>	<p>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
中学校 外国語	<p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場で運用できる技能を身に付けている。</p>	<p>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</p>	<p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>
高等学校 外国語	<p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場で運用できる技能を身に付けている。</p>	<p>○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</p>	<p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>

外国語教育におけるICTの活用について(たたき台)

(現状と今後の方向性)

別添15

各教科等における情報に関わる資質・能力の育成 改善・充実のポイントのイメージ(案)

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語によるコミュニケーションに必要な情報を抽出し、得られた情報を基に自分の考えを構築し、効果的に伝えるために必要な力を育成すること。 ○ アクティブ・ラーニングの視点に立ったペア・ワークやグループ・ワークなどの学習活動において、ICTを効果的に活用した学習が行われるようにすること。 ○ 外国語に触れるとともに実際に外国語を使う機会を増やすためにも、ICTを積極的に活用すること。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成28年1月18日 総則・評価部会(第4回)資料より



	○ 現行の学習指導要領 (◇解説)	参考 (26年度)	方向性	活用例
小学校	<p>○ 音声を取り扱う場合には、CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること。</p> <p>その際、使用する視聴覚教材は、児童、学校及び地域の実態を考慮して適切なものとする。</p> <p>◇ さままな視聴覚教材が手に入ること考え、それらを使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切である。</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室の環境整備 (校内LANの整備や必要機器の設置等) ・ 教員によるICTリテラシーの差 (効果的な指導法の共有不足) 	<p>87.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン ・ デジタルカメラ <p>37.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板 <p>31.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚教材、パソコン、情報通信ネットワークなどを、身に付けるべき能力や児童生徒の現状(能力・適性や興味・関心など)に応じて活用する。これらを通じ、児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化及び言語活動の更なる充実を図り、児童生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力向上に資する。 	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア等で会話などのシミュレーションの交流や、会話などの言語活動を効果的に行うためのICTの活用 等 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声中心にデジタル教材や電子黒板等を活用して、児童にネイティブの発音に触れ、日本語と英語の音声の違いに気付かせる ・ 情報通信ネットワーク等を通して、中学校区内小学校や、校種の違う学校及び、海外の学校との交流により、外国語を使ったコミュニケーションを体験すること <p>がさらにコミュニケーションへの意欲を喚起 等</p> <p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度に応じた発音等の練習 ・ 活動の振り返り 等

	活用例	
○現行の学習指導要領 (◇解説)	方向性	参考 (26年度)
中学校	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の意見や考えを議論し、互いの意見を伝え合う ・グループでの情報の収集・整理(リサーチ活動) ・プレゼンソフトを活用し、与えられたテーマ等について口頭で発表 等 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等による調査 ・テレビ会議システムを活用し、外国の生徒と交流(相互の学校紹介等) ・電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示 ・遠隔地の学校との交流 ・情報通信ネットワーク等を用い、教材に関する資料や情報を入力 等 <p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りや自己評価 ・話すことのパフォーマンスをタブレットで録画し、自分や他の生徒の様子の振り返り ・自分が書いた文章を実際にメールで送信 等 	<p>89.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・電子黒板 ・書画カメラ <p>23.6%</p>
高等学校	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報を活用した意見等の構築 ・発表、討論・議論、交渉などの言語活動を効果的に行うためのICT機器の活用 等 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの情報の収集・整理(リサーチ活動) ・扱う話題に関連した教材(英文、音声、動画等)の提示による発展的な言語活動 ・言語活動の展開方法等のビジュアル化 ・国内外の遠隔地の学校(海外の姉妹校を含む)等とのEメールやテレビ会議による交流 等 <p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りや自己評価 等 	<p>74.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・指導者用タブレット <p>28.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルビデオカメラ <p>20.5%</p>

・視聴覚教材、パソコン、情報通信ネットワークなどを、身に付けるべき能力や児童生徒の現状(能力・適性や興味・関心など)に応じて活用する。これらを通じ、児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化及び言語活動の更なる充実を図り、児童生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力向上に資する。

○生徒の実態や教材の内容などに応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用すること。

◇視聴覚機器を効果的に使うことで教材が具体化され、生徒にとって身近なものとしてとらえられるようになるとともに、生徒の興味・関心を高め、自ら学習しようとする態度を育成できる。

- ・情報通信ネットワーク等を使い、教材に関する資料や情報を入力することや、情報を英語で発信したりすることで、主体的に世界と関わっていくようとする態度を育成できる。
- ・教室の環境整備(校内LANの整備や必要機器の設置等)
- ・教員によるICTリテラシーの差(効果的な指導法の共有不足)
- ・ICT活用に適した教材の不足

○各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、情報通信ネットワーク等を適宜指導に生かしたりする。

◇視聴覚教材などを活用して現実感や臨場感を与えたり、パソコンなどを利用して生徒の能力・適性や興味・関心に応じた個別学習の機会を拡大したり、情報通信ネットワークを有効に活用して発展的な言語活動を実際に体験させたりするなど、様々な指導方法や指導体制の工夫をすることが大切である。

- ・教室の環境整備(校内LANの整備や必要機器の設置等)
- ・教員によるICTリテラシーの差(効果的な指導法の共有不足)
- ・ICT活用に適した教材の不足